

TOTO

リモデル便器

BM

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

安全に関するご注意 (安全のために必ずお守りください)

施工の前に、この「安全に関するご注意」をよくお読みのうえ、正しくお取り付けください。この説明書では、商品を安全に正しくお取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
	注意 この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかる拡大損害を示します。お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	は、してはけない「禁止」内容です。左図は、「禁止」を示します。		は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。
--	---------------------------------	--	---------------------------------------

注意

	禁止 便器に強い力や衝撃を与えない 便器が破損してけがをしたり、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。
	必ず実行 設置工事に使用する部品は必ず付属部品および指定部品を使用する 正常な取り付けができなくなる可能性があります。 設置工事は、この説明書に従って確実に 故障や水漏れの原因になります。

同梱部品

※部品があるか、下記を参照して確認してください。

便器本体	固定金具類	化粧キャップ類
	固定片 (1個) 木ねじ (固定片用) (φ5×50:2本)	化粧キャップ (前固定用) (1個) 化粧キャップ (後固定用) (2個)
排水アジャスター	Tボルト (2本) 木ねじ (便器接続部用) (φ5×50:2本)	ワッシャー (後固定用) (2枚) 皿木ねじ (前固定用) (φ5.8×56:1本)
便器接続部 (1個) ※ゴムジョイント付き	Pシール 金属フランジ用 (1個) 樹脂フランジ用 (1個)	木ねじ (後固定用) (φ4.8×90:2本)
横引管 (1個) フランジ接続部 (1個)	その他 施工説明書 (1部) 位置決めシート (1部)	
掃除口ふた部品 (掃除口付きの場合)		
パッキン (1個)	止め金具 (1個)	ふた本体 (1個) ワッシャー (1枚) 六角穴付きボタネボルト (1本)

使用工具 (別途ご準備ください)

六角棒スパナ (呼び径4)

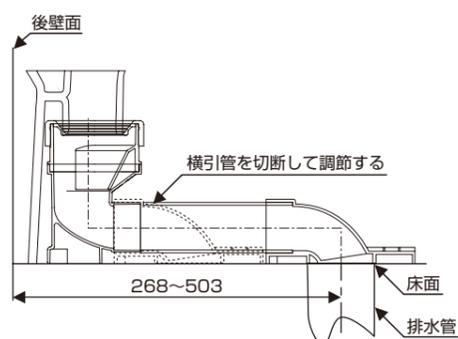


取り付け前のご注意

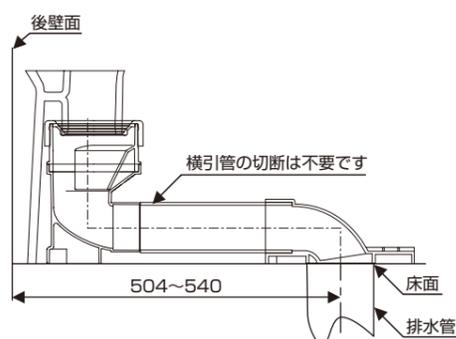
- 取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、ドアの開閉に支障がないことを確認してください。
- 商品への通水は取り付け作業をすべて終えてから行ってください。
- 連結ホースの先端接続部にキズを付けないようにしてください。
- 給水圧力は最低必要水圧(流動時): 0.05MPa、最高水圧(静止時): 0.75MPaです。この圧力範囲でご使用ください。
- 施工前に給水取り出し位置および排水管位置が所定の位置であることを確認してください。
- 便器洗浄付のウォシュレット、またはリモコン便器洗浄ユニットを設置する場合は、必ず専用品を選定ください。専用品以外の場合、便器洗浄機能が正常に作動しません。
[専用品] 便器洗浄付ウォシュレット: TCF***EAK
リモコン便器洗浄ユニット: HE30/30J
- 掃除口付きの場合は、メンテナンスのために便器中心から横壁まで375mm(作業可能な最小寸法)以上の空間を設けてください。なお、TOTOが推奨する標準寸法は400mmとなります。

排水心の確認

- 排水心268~503mmの場合
横引管を排水心にあわせて切断し、塩ビ接着剤で確実に接続してください。
※排水心268mmの場合、横引管は不要です。



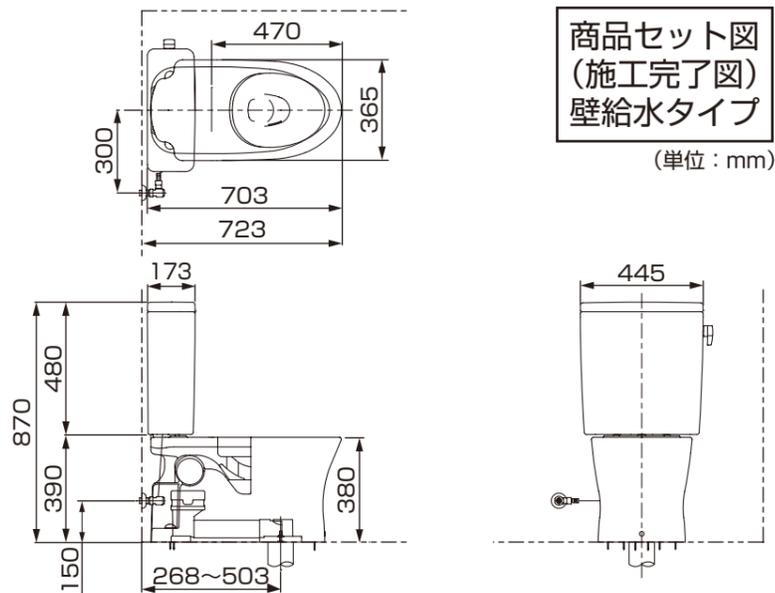
- 排水心504~540mmの場合
横引管の切断は不要です。便器を前にずらして施工してください。



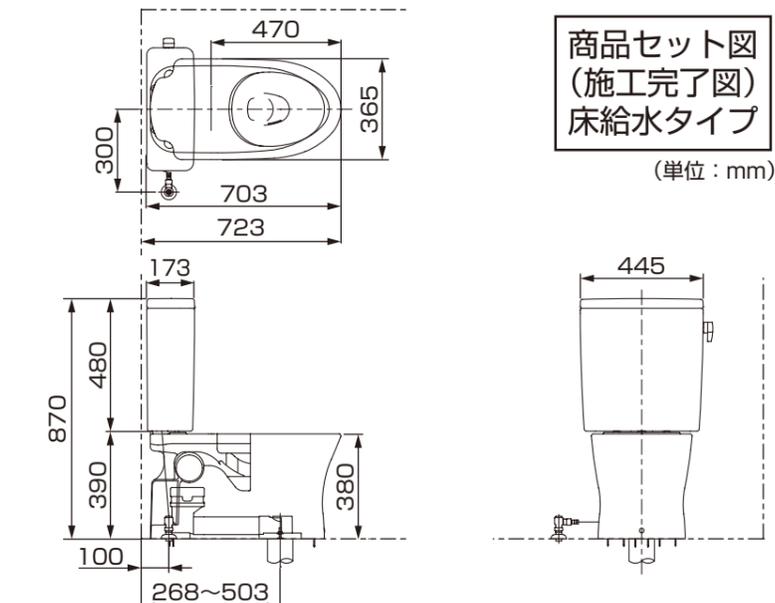
※便器排水心が504~540mmの場合は便器を前に出して施工可能。

例) C730からの取り替えの場合、排水心が壁から540mmにあるため便器と壁とのすき間は70mmとなります。

商品セット図 (施工完了図) 壁給水タイプ (単位: mm)



商品セット図 (施工完了図) 床給水タイプ (単位: mm)



給水位置の確認

注意



給水位置の真下に電源コンセントを設置したり、給水ホースと電源プラグ・電源コンセントを接触させない

結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因になります。



止水栓は横壁面・床面から40mm以上離して取り付ける

すき間が小さいとメンテナンスに必要な空間が確保できなくなります。

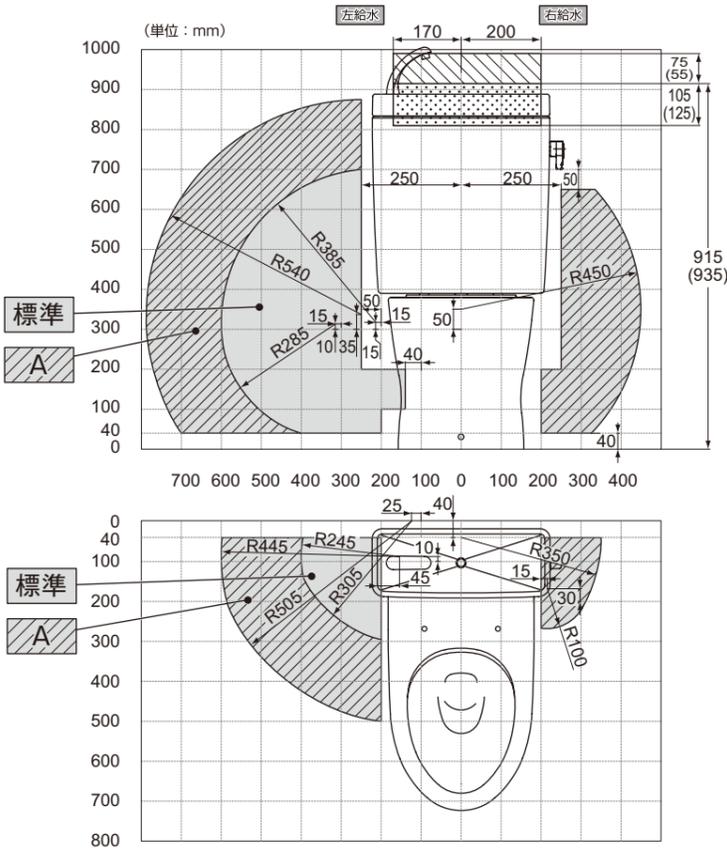
・右給水の場合や給水ホースの不足がある場合、長さ違いの給水ホースをご購入ください。

標準の範囲が標準です。同梱の給水ホースをご使用ください。

Aの範囲の場合は、給水延長用フレキシホース(200mm) TN98L2X20を使用してください。

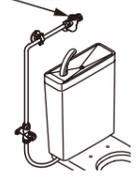
※給水ホースが折れないように接続方向を調整してください。

給水ホースが折れると水が流れなくなったり、水漏れするおそれがあります。



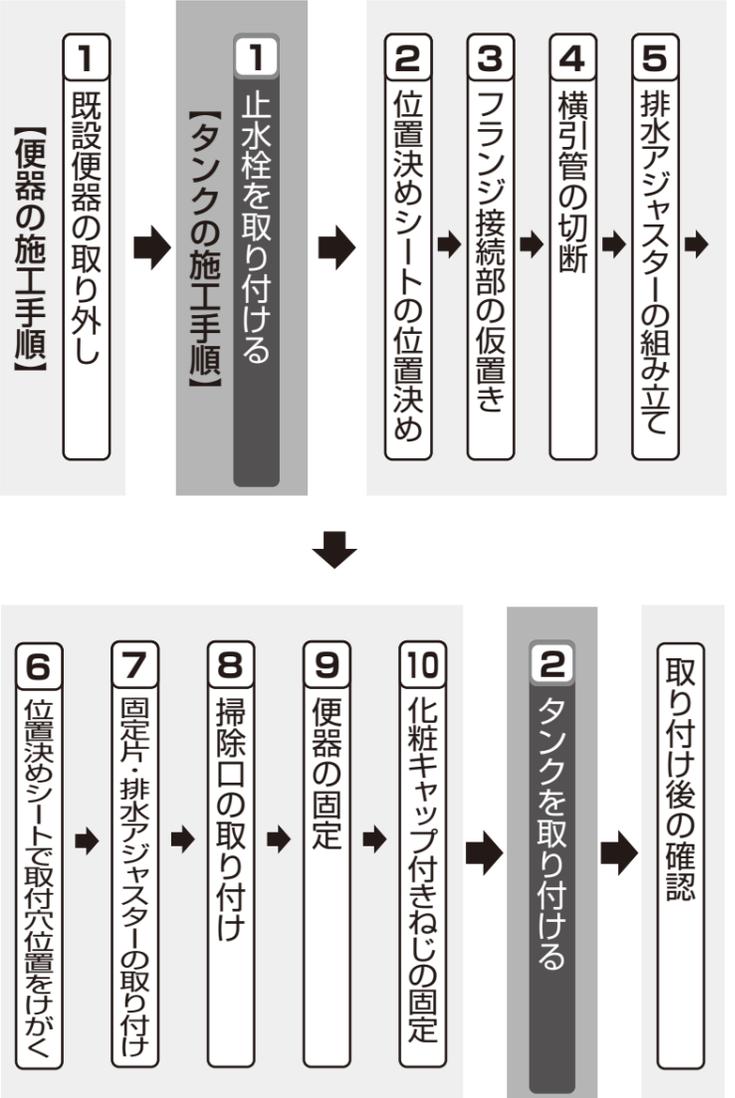
<壁>
C14系と隅付ロータンクS536、S570、S670などがセットされているトイレからの取替の場合
既設の給水ホース位置が左図の点線部分にある場合には、取替用止水栓品番：TS220FUを別途現場手配いただくこととなります。
※点線部分：タンクとの干渉を避けるために、タンクの背面と壁との距離を55mm以上確保してください。
<左図寸法部分>
※上段寸法は手洗無、()寸法は手洗付となります。

取替用止水栓 (TS 220FU)



施工手順

この施工手順に従って便器・タンクを正しく取り付けてください。
()は本紙、■はタンクの施工説明書を参照ください)



各部のなまえと施工のポイント

結露防止カバーは取り外さないでください！再度取り付けることができません。※取り外すと結露水で床をぬらすおそれがあります。

結露防止カバー

ポイント⑥
便器後ろの木ねじ固定を先に行うこと！
締め過ぎて便器を割らないこと！
最後の締め増しは手締めで行うこと！ (➡⑨)

便器
パッキン
止め金具
ふた本体
ワッシャー
六角穴付きボタンスクリュー

掃除口部 (図は掃除口部が右側にある場合)

ポイント①
横引管切断は真っすぐ切断すること！ (➡④)

<壁給水の場合>
止水栓

<床給水の場合>
止水栓

※タンク同梱のフィルター付き止水栓を必ず取り付けください。ゴミかみによる止水、吐水不良になるおそれがあります。

ポイント⑤
床面に対してガタツキがないように接着すること！ (➡⑦)

ポイント②
接着剤塗布位置を間違えないこと！ (➡⑤)

便器

皿木ねじ (φ5.8×56)
化粧キャップ(前)

取付穴

便器接続部

フランジ接続部

Pシール
Tボルト

木ねじ(φ5×50)

固定片

※既設フランジ
T53WR75, T53WR100, T53PR75, T53PR100, HP430

ポイント④
Pシールの種類およびセットの方法は既設フランジの種類によって異なります。(➡⑦)

ポイント③
位置決めシートで固定片の位置をきちんと出すこと！ (➡⑥)

取付方法

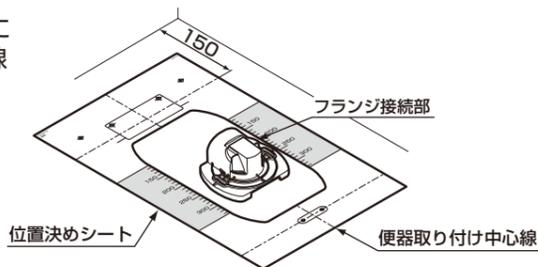
1 既設便器の取り外し

既設の便器を取り外し、Pシールをきれいに取り除く。

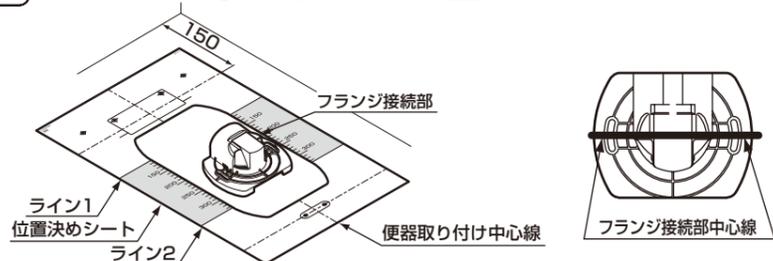
2 位置決めシートの位置決め

後壁面から150mmの位置に位置決めシートの取付基準線をあわせて置く。

※取付基準線の位置決めは左右の2カ所で行ってください。



3 フランジ接続部の仮置き



ケース①	ケース②	ケース③	ケース④
フランジ接続部中心線がライン1とライン2の間にある	フランジ接続部中心線とライン1が一致	フランジ接続部中心線とライン2が一致	フランジ接続部中心線がライン1とライン2の間でない
目盛りにあわせて横引管切断	横引管不要	横引管切断不要	横引管切断不要
4	5	5	5

位置決めシートを手前にずらして、ライン2とフランジ接続部中心線をあわせる

ライン2とフランジ接続部中心線をあわせる

4 横引管の切断

(例) 右図測定寸法が250mmの場合

こちらを切らないでください。 → 目盛りにあわせて真すぐに切断してください。

便器接続部側 フランジ接続部側

①既設フランジ中心線とフランジ接続部中心線をあわせる。
②位置決めシートの目盛りと同じ目盛り位置で横引管を真すぐに切断する。
③横引管端部のバリを完全に取り除く。

5 排水アジャスターの組み立て

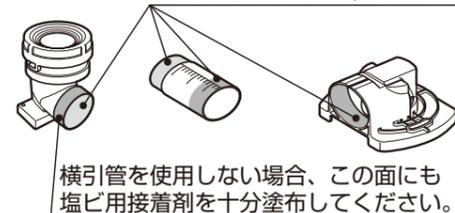
注意

横引管は最後まで、きちんと押し込む
接着が不十分な場合、水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因になります。

床面に対してガタツキがないように接着する
ガタツキが大きいと水漏れして家財などをめらす財産損害発生の原因になります。

●排水心268~503mmの場合

①塩ビ用接着剤を十分塗布し、各中心をあわせるように組み立てる。



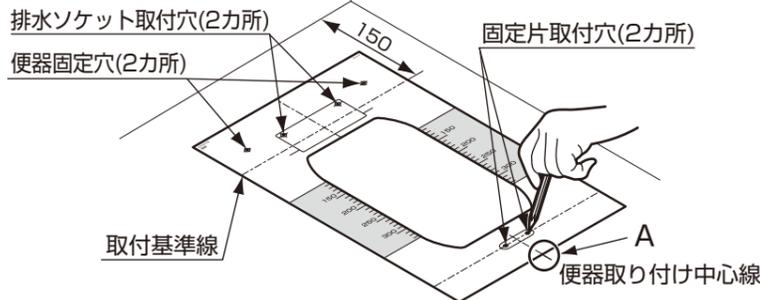
②突き当たるまで差し込む。



横引管を使用しない場合、この面にも塩ビ用接着剤を十分塗布してください。

6 位置決めシートで取付穴位置をけがく

- ②であわせた位置に位置決めシートを置く。
- ②給水管取り出し範囲に止水栓があることを確認する。
※給水位置が適切でないと、止水栓が商品に干渉することがありますので、ご注意ください。
- ③排水ソケット取付穴位置および固定片取付穴位置、便器固定穴位置(6カ所)をけがく。
- ④鉛筆など(あとで消せるもの)で下図A(便器取り付け中心線)に印をつける。
- ⑤けがいた取付穴位置にφ3程度の下穴をあける。
※φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。



7 固定片・排水アジャスターの取り付け

注意

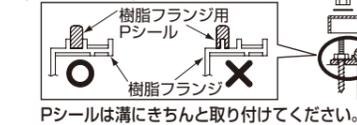
Pシール取り扱い上の注意

- 既設のフランジのタイプにあわせ、金属フランジ用Pシールまたは、樹脂フランジ用Pシールを使用する
 - 既設のフランジタイプによって、Pシールの取付方法が異なるので注意する
- Pシールを間違えて取り付けると、洗浄不良などの不具合や便器が詰まり汚水があふれたり、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

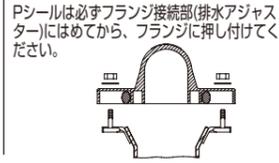


必ず実行

(樹脂フランジ用)
Pシールは必ずフランジ側にセットしてから、フランジ接続部(排水アジャスター)を上から押し付けてください。



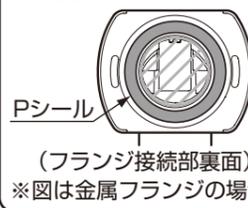
(金属フランジ用)
Pシールは必ずフランジ接続部(排水アジャスター)にはめてから、フランジに押し付けてください。



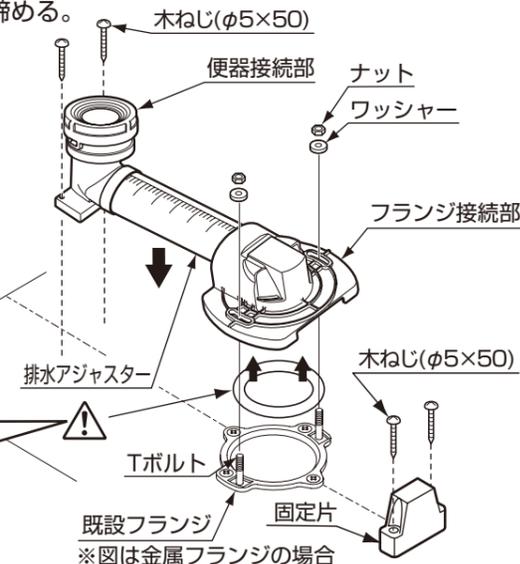
- ①〈樹脂フランジの場合〉Pシール(樹脂フランジ用)をフランジにセットする。
〈金属フランジの場合〉Pシール(金属フランジ用)を排水アジャスターにセットする。
- ②排水アジャスターをフランジに押し付けてから、便器接続部の取付穴(2カ所)に木ねじを入れ、確実に締める。
- ③フランジ接続部を、ワッシャー・ナットで既設フランジに固定する。
- ④固定片を所定の位置にあわせて、木ねじで床に固定する。

注意

Pシールが斜線内に入らないようにセットしてください。



(フランジ接続部裏面)
※図は金属フランジの場合



8 掃除口の取り付け

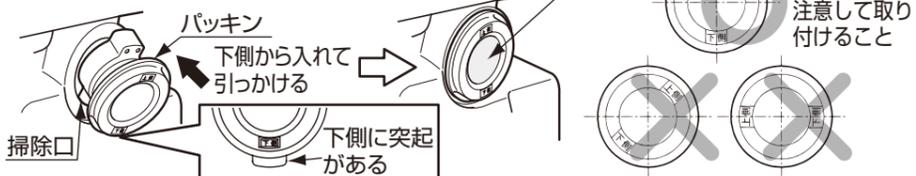
使用工具

六角棒スパナ(呼び径4)

掃除口付きの場合

<取り付けかた>

- ①パッキンを掃除口に取り付ける。



※パッキンの内側全体を水で湿らせると滑りやすくなり、施工が確実にできます。

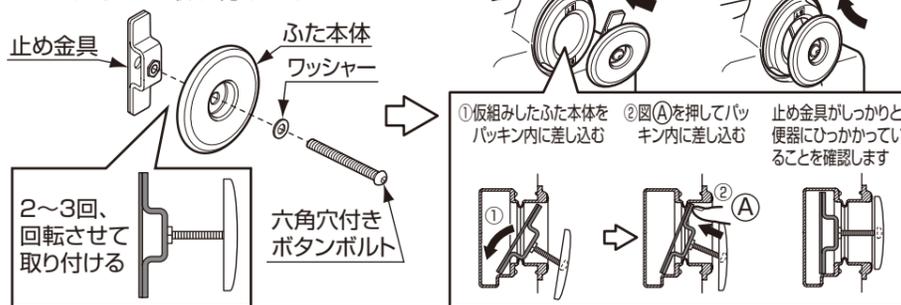
注意



必ず実行

パッキンは必ず上下方向を確認して便器に取り付ける
誤った向きに取り付けると水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

- ②六角穴付きボタンボルトにワッシャー、ふた本体、止め金具の順に仮組みし、パッキンに取り付ける。



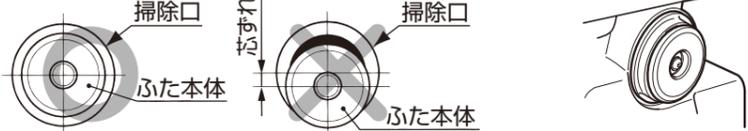
8 掃除口の取り付け(つづき)

③取付位置がずれてないかを確認し、六角穴付きボタンボルトを締め付ける。



注意
長いほうを手で持って締め付けると、力が掛かり過ぎて止め金具が破損するおそれがあります。

④ふた本体が確実に固定されているか確認する。
※芯ずれがある場合は、もう一度締め直してください。



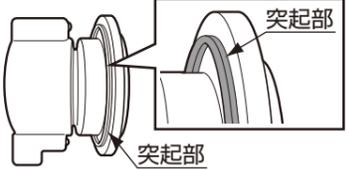
注意

- 必ずふたを確実に固定したことを確認したうえで、洗浄を行うようにする
- 必ずパッキンの突起部全周が半分以上つぶれるまで締め付けられているかを確認する



必ず実行

締め付けが足りない場合は水漏れにより家財に損害を与えるおそれがあります。万が一水漏れする場合には締め増しをしてください。



<取り外しかた>

注意



必ず実行

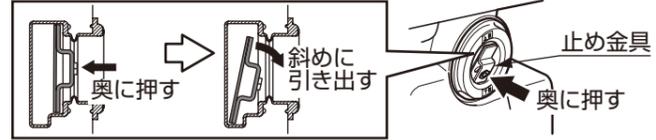
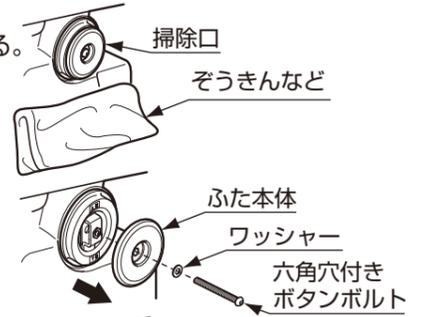
便器に異物が詰まり掃除口のふたを開ける際には、必ず便器内の汚水を抜いてから行う
汚水が掃除口部よりあふれ、床を汚すおそれがあります。

衛生面から作業前に必ずゴム手袋を着用ください。

注意

パッキンを取り外す際は必ず止め金具を取り出してください。止め金具を取り付けたままパッキンを引き抜くと破損します。

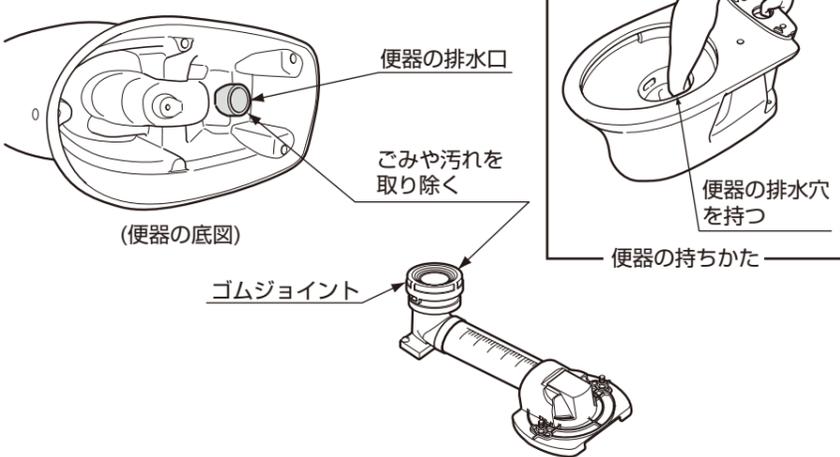
- 止水栓を閉める。
- 便器内の汚水を抜き、床を汚さないために、掃除口の下に厚手のぞうきんなどを用意する。
- 六角穴付きボタンボルトをゆるめる。
- 六角穴付きボタンボルトおよびワッシャー、ふた本体を取り外す。
- 止め金具を奥に押し斜めに引き出す。
- パッキンを取り外す。
- 詰まり除去の作業後、上記の取付方法に沿って掃除口ふたを確実に固定する。



9 便器の固定

①便器排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除き、便器排水口を排水ソケットに差し込む。

※便器の持ちかたは右図を参考にしてください。



②便器後側の取付穴(2カ所)を木ねじ、ワッシャー、化粧キャップ(後)で固定する。

※締め過ぎて便器を割らないように注意してください。

③便器前側の取付穴に皿木ねじを差し込み、固定片に便器を固定し、ねじの頭に化粧キャップ(前)を差し込む。

※便器前側を固定する際は、床にけがいた印(図A)と便器前方の穴をあわせてください。

※最後の締め増しは、手締めにより行い便器を割らないように注意してください。

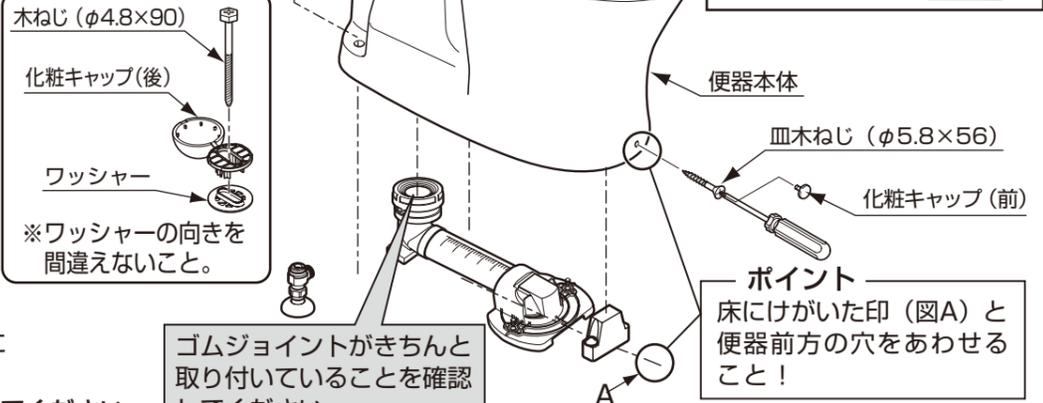
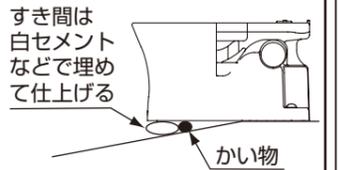
注意



必ず実行

便器後部の固定を必ず先に行う
前側の固定を先に行くと便器が後方へスライドし、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

床面に不陸がある場合、大便器下面にかい物をして大便器を固定したあと、すき間を白セメントなどで埋めて仕上げてください。



※ワッシャーの向きを間違えないこと。

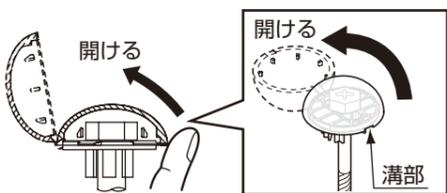
ゴムジョイントがきちんと取り付いていることを確認してください。

※壁面に幅木があり便器が取り付けられない場合には、幅木をカットしてください。

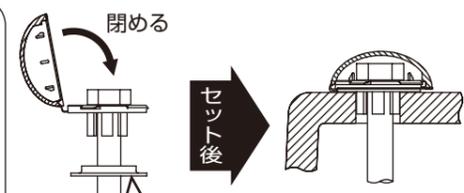
10 化粧キャップ付きねじの固定

<取り付けかた>

①化粧キャップを開け、木ねじを取り付ける。



②化粧キャップを矢印の方向に曲げて、「パチッ」と音がするまで押し込む。



注意



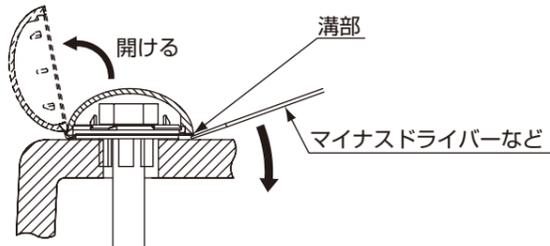
必ず実行

ワッシャーは正しい向きに取り付ける
反対向きに取り付けると陶器または部品が破損するおそれがあります。

ワッシャーの向きを確認
凸形状を上向きにする

<取り外しかた>

マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップの溝部に差し込み、矢印の方向に押さえて開く。



タンクの取り付け

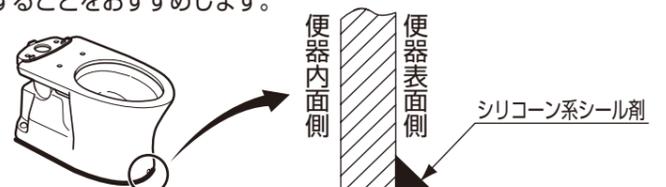
タンクの取り付けはタンク同梱の施工説明書に従って取り付けてください。

取り付け後の確認

- 試運転(洗浄)後、便器ボウル内に配管の切粉など異物がないことを確認してください。もらいさびなど異物付着の原因となるおそれがあります。
- 陶器表面に傷がないことを確認してください。陶器表面に金属類(時計のバンド、ベルトのバックルなど)が強く接触したり、こすれたりすると黒や銀色のスジ状の跡が付くことがあります。スジ状の跡が付いた場合は、当社製品「蛇口まわりのクリーナー」で除去してください。
- 施工したあとは、便器ボウル内に油などの見えない汚れ(コーキング剤、配管用接着剤など)の付く場合がありますので、トイレ用中性洗剤(研磨剤なし)を使って、必ず汚れをふき取ってください。便器ボウル面の洗い残りの原因となります。

お客様に快適に使っていただくためのポイント

トイレ床材に防水加工がされていないフローリング(木質系)を使用すると、こぼれた小水や結露水などが便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。フローリング(木質系)を使用される場合は、便器下部周囲に防カビ性の透明シリコン系シーラントを塗布することをおすすめします。



※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。